

第1号議題 2019年度事業報告及び収支決算報告に関する件

2019年度は前年度に引き続き会員増強を最重要課題として取り組み、法人7社、個人33名の新規会員を獲得する成果を挙げた。また、財務面でも、会員増加による会費増収効果と管理費の抑制的運営により、最終損益は△361千円と若干ながらも期初予算△357千円を上回ることができた。

一方、親善交流事業では駐日シンガポール大使交代に伴い新大使歓迎レセプションを2020年2月に開催、時期的に重なったGet Togetherは取り止めたものの、その他のイベントは新型コロナウイルス禍の中で辛うじて開催に漕ぎつけることができた。なお、感染拡大に伴う行政当局からの集会・外出自粛要請により、遺憾ながら総会は規模・内容を大幅に縮小しての開催を余儀なくされた。

1. 会員増強

- (1) 財務上のインパクトが大きい法人会員については、前年度注力したシンガポール現地の日系企業の新規獲得に引き続き、2019年度は国内法人の勧誘を精力的に行い新たに7社の新規入会を獲得することができた。
- (2) 協会の基盤となる個人会員については新規20名、カテゴリー変更13名、計33名の入会があった。内訳は帰国した駐在員、シンガポール在住者、ホームページを見ての入会者等バックグラウンドは多様であり、今後の協会の基盤拡大にとって望ましい傾向と言える。

2. 財務状況

- (1) 駐日シンガポール大使交代に伴う送別会・歓迎会費用、S\$下落による為替差損等予算外の支出があったものの会費増収効果と管理費抑制により吸収し、加えて、正式締結した事務局長との雇用契約に基づく退職慰労引当金の計上後で最終損益は期初予算を達成できた。
- (2) 講師派遣事業は5回の計画に対し実績は4回にとどまったが、内訳は東京、奈良の高校、中学、市民講座と対象及び地域の広がりを見せた。親善交流事業では夏開催のAfternoon Tea Salonは好調であったものの、その後Get Togetherの中止、新型コロナウイルス禍により新春落語・親善ゴルフ参加者が減少し、これらの事業の収支は計画を下回った。

3. その他の事業

- (1) 広報事業では季刊誌の年3回発行の目標を達成した。季刊誌は充実した内容で好評を得ているが、一方、原稿の先細りの状況が続いており対策が必要になっている。
- (2) 調査研究事業では「シンガポール共和国の概況」をアップデートし配布した。出版事業では「日本人社会百年史」、「シンガポール会社法Q&A」の販売が不振で予算を大幅に下回った。
- (3) 会員サービスについては会員カードで割引の得られる提携レストランを2社追加し新カードの裏面に記載の上配布した。

附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。

以上

第 2 号議題 2020 年度事業計画及び収支予算に関する件

2020 年度は全世界的な新型コロナウイルス禍の影響で協会の運営も会員増強、事業活動、財務すべての面で厳しい状況に置かれるものと予想される。このため、下記の事業計画及び収支予算は状況に即して柔軟かつ機動的に対応することを前提といたしたい。

1. 既存会員の維持と新規会員の増強

- (1) 法人会員の維持・増強については引き続き最重要課題として取り組む。しかしながら、法人では事業環境及び企業収益の劇的な悪化から経費削減の動きが強まっており、協会に於いても既に今年度から 4 社の退会が確定している。かかる厳しい環境下においては既存の法人会員に働きかけ会員数の維持を図るとともに、新規の法人会員獲得のため、事業面でシンガポールと関係を有する先を発掘する地道な勧誘活動を継続していくこととする。また、前年度から取り組んでいる留学生を含むシンガポール人学生と日本企業の採用マッチングについては、目下、日本企業の 1 社と NUS の教授を巻き込む形で進展しており、その実現と他社への展開を図り、法人会員にとってのビジネスインセンティブに結びつけたい。
- (2) 個人会員については高齢化に伴う交際範囲の整理・縮小による退会が趨勢的に続いており、今年度も既に 33 名の退会（13 名の 카테고리変更を含む）が確定している。会員サービスを一層充実し既存個人会員の維持に努めるとともに、新規個人会員獲得のため、帰国する日系企業駐在員の勧誘をきめ細かく行うこととする。加えて、協会ホームページの一層の活用を図りたい。

2. 事業活動

- (1) 親善交流事業の恒例イベントは今年度も計画するが、実施については新型コロナウイルスの状況を睨みつつ個別イベント毎に判断することとしたい。
- (2) 2021 年は協会発足 50 周年に当たることから何らかの記念イベントを行いたい。具体的計画は未定であるが、講演会もしくは親善交流イベントに関連して実施を企画したい。
- (3) 知日派である新駐日シンガポール大使との交流を深め、大使館との密接な連携を図りたい。また、各地のシンガポール協会、日本香港協会、在日シンガポール人会等の友好団体との協働、イベントへの相互参加を通して一層の親善交流を図りたい。
- (4) その他の事業については基本的に前年度目標を据え置くが、調査研究事業の「シンガポール共和国の概況」執筆者交代への対応、出版事業の実態に合わせた見直しを行いたい。

3. 財務

2020 年度収支予算では最終損益で△224 千円の黒字を見込む。新型コロナウイルスの状況次第では会費収入、事業収入及びイベント収益の下振れリスクがあるが、管理費の抑制でできるだけカバーすべく努めたい。

以上